

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
5月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～土地・株式資産の価格上昇が及ぼす影響などを試算しています。

2007/5/7 [「16年ぶり拡大に転じた土地資産額」](#) 掲載カテゴリ：「ニュースリリース」

～日本経済は潜在成長率を上回る成長を続けている模様です。

2007/4/27 [「GDP統計 2007年1～3月期一次速報予測」](#)（実績発表後の続報もご覧ください）
掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～世界の金融市場動向について毎週コメントしています。

2007/5/7 [Weekly Market Report（毎週月曜日配信）](#)
掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～日銀展望レポートと遅れていると言われるサービス業の生産性向上についてコメントしています。

2007/4/27 [「慎重さをみせた展望レポート」](#)
2007/4/24 [「日本企業の労働生産性問題」](#)
掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～米国景気のトレンドや欧州、激動のアジア経済についてコメントしています。

2007/4/23 [「中国 今後も慎重なペースで金融引き締め継続」](#)
掲載カテゴリ：「アジア経済」
桂畑誠治の「米国経済を探る」、「欧州経済」を合わせてご参照ください。

編集後記

最近、読みにくい手書きの文字を読むという体験をした。前後関係から推測して難解な筆記体が読めることがある。一方、最初に推測した文脈にこだわると、実は簡単な文字でも思い込みが邪魔をして読めないこともある。経済の分析でも明快な定説にこだわって実態を見誤る場合があるように思う。

例えば生産性に関すること。国際比較でもわが国のサービス産業の労働生産性が低いことが問題となっている。その対策としては、IT活用などで効率を上げることが急務だといわれる。しかし、統計で示された生産性の水準が他の先進国よりかなり低い理由がはっきりしない。過去10数年、サービス産業を含むあらゆる分野で、程度の差はあれパソコンやインターネットが導入され、同時に方向性としては規制緩和が進んだことに異論を差し挟む人はないだろう。それなのにサービス産業の生産性がこの長い期間にほとんど上昇することなく、むしろ低下したのはどうしてだろうか。

先月号に掲載した当研究所熊野主席エコノミストの「なぜ、サービスの生産性は上昇しにくいのか」はそこにひとつの手がかりを与えている。製造業からのアウトソースの受け皿として労働者派遣業のウエイトが増えていること、社会保険・介護・福祉など生産性の高めににくい分野での雇用が著しく増加しているという分析がある。「サービス産業」の中身を切り分け、時系列で見ることで、平均値とは違った絵が浮かび上がってくる。加えて、特にわが国では90年代以降のデフレ不況も無視できない。日本の産業界が辿ってきた道筋を生産性の低迷と重ね合わせてみると、筋書きがいくらか見えてくるように感じる。（H. U）